



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ2011推進ニュース

—介護ウェーブの“Big Wave”をおこそう！—

新方針「介護ウェーブ2011後半戦の方針」を具体化し介護改善要求の声を国会に届けよう！

介護報酬改定、介護保険制度見直しをめぐる9月以降の審議の経過について

来年1月の介護報酬改定案の諮問・答申に向けて審議が急ピッチ進む

厚労省「社会保障審議会介護給付費分科会」は、9月初旬までで議論が一巡し、9月末以降、個別サービスごとの報酬・基準のイメージが提案され、今月10日の介護給付費分科会までに、定期巡回・随時対応訪問介護看護等の新サービスや、既存の在宅サービス、地域密着型、施設について検討されています。なお、10月7日の介護給付費分科会では、改定の基礎資料になる「平成23年度介護事業経営実態調査」の結果が示されるとともに、地域区分の見直しの案も提示されました。

また、2012年が診療報酬との同時改定となることから、中医協と介護給付費分科会との非公式の懇談会が初めて開催されています。

現在、月2～3回のペースで審議会が開催されていますが、12月中旬には、介護報酬・基準に関する基本的な考え方の整理・とりまとめを行うスケジュールです。合わせてこの時期に次年度予算編成との関連で改定率を公表するとされています。以上の作業を経て、来年1月に、介護報酬改定案についての諮問・答申がされる予定です。

<介護給付費分科会主な議事>

- 9月22日 定期巡回・随時訪問介護看護、複合型サービス
- 10月7日 介護事業経営実態調査、地域区分の見直し（地域格差の是正）
- 10月17日 訪問介護、訪問看護、療養通所介護、短期入所。居宅療養管理指導
- 10月31日 通所介護、リハビリ、予防介護、居宅介護支援
- 11月10日 特養、老健、特定施設、口腔・栄養関連、小規模多機能、福祉用具

社会保障・税一体改革の介護分野の具体化に向けて介護保険部会が再開

同時に見逃せないのは、介護給付費分科会と並行させて、10月から介護保険法改正の審議を行う「社会保障審議会介護保険部会」が再開されていることです。検討テーマとして、6月30日に政府がとりまとめた「社会保障・税一体改革」における介護分野の次期改革課題があげられています。その中で、国庫負担の削減を前提にした「総報酬割」の導入とともに、「要支援者の利用料負担の引き上げ」「ケアプランの有料化」「高額所得者の利用料引き上げ」等、今回の介護保険法改正でいったん立ち消えになった負担増メニューが、一体改革との絡みで再び提案されています。政府は、年内に必要な法案をとりまとめ、来年度の通常国会（2012年1月開会予定）に可能なものから順次提案していくとしています。

<主な議事>

- 10月13日 社会保障・税一体改革、介護分野の対応、次年度予算概算要求
- 10月31日 社会保障・税一体改革における介護分野の制度見直しについて
= 第1号保険料の負担軽減、総報酬割、昨年部会での論点の提案

★ 以上の介護給付費分科会、介護保険部会の資料は、厚労省のホームページで閲覧できます。

- 介護給付費分科会 (<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000008f07.html#shingi7>)
- 介護保険部会 (<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000008f07.html#shingi32>)

なじみの地域、なじみの場所で尊厳のある生活の保証を求める 高松市にヘルパー・ケアマネジャー等10名が現場の声を届ける（香川）



10月18日に高松市高齢者保健福祉計画・第5期介護保険事業計画の進捗状況や、事例にもとづく現場からの声を届けるために、懇談会を実施しました。

懇談会では、一点目に、実態調査から、要支援1・2の方（一人暮らしや高齢者世帯）が健康を悪化せずに在宅生活を維持していくには定期的・専門的な人との関わりが必要なこと、予防の視点が重要であり介護保険から外さないように（プランに基づく支援）要望しました。

二点目に、紙おむつの支給要件変更に伴い、対象外となった方が多く金銭的にも負担が大きくなり、生活状況が悪化していること、衛生的に安心して暮らせるように必要な人に必要な量の支給があるよう、身体要件だけでなく所得要件も勘案すること、特に非課税世帯への再開を要求しました。

三点目は、利用者の重度化による介護者の疲弊、仕事との両立の困難。インスリンや胃ろう、痰の吸引等、医療ニーズが高い利用者の増加・支援に対して、区分支給限度額の制限や受け入れサービスの確保が困難で、介護難民化している現状、圧倒的に不足している施設数、低所得の方が安心して入居できる住居の整備の必要性を伝えました。

高松市も、国の方針がきちんと定まっていない中で、サービス見込み量の策定などは、これからとの返答でした。健やかな老いを支えるため、市の担当者、地域包括支援センターからも一緒に協力していきたいとの言葉もありました。なじみの地域、なじみの場所で尊厳のある生活が保証されるため、今後も介護福祉委員会としてこうした懇談会等を通して問題提起していきます。（2011年10月31日 香川医療生協より）



市役所の職員と勘違いされ「保険料を天引きするな」と怒られる 11月11日「介護の日」宣伝・署名行動に20名の職員が参加（長崎）



11月11日「介護の日」に、長崎民医連、医療法人健友会、社会福祉法人春風会から20名の参加で、鉄橋宣伝・署名行動を行いました。1時間弱の宣伝行動でしたが、署名は185筆、パンフレット270部を配布しました。NIBと長崎新聞が取材に訪れ、戸町ふくし村の相良主任が丁寧に説明をしたことで、記者は通行人に積極的な取材をしていました。快く署名に応じてくれ方が多かったですが、中には、高すぎる保険料が頭にきている方は、「署名をしても一緒」と怒って拒否したり、職員が市役所職員と勘違いされ、「保険料を天引きするな」と怒られたり、

また、アーケード入り口で一過性脳虚血発作らしい倒れた方を対処して救急車を呼ぶなど、ハプニングもありましたが、しっかりと市民へ介護保険制度の改善をうたいました。若い介護職員も、自らの思いを込めてハンドマイクで熱い想いを伝えました。11月に入り、各事業所の取り組みが進み10日間で519筆、累計で1,060筆と目標を早期に超過達成しました。今回の署名は、特養青葉苑の奮闘が目立ちます。戸町ふくし村に負けるなど目標の200%近くまで集めています。

（長崎民医連 介護ウェーブニュース 2011.11.11 より）

お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp